

14.21 - 18



\*1200700353170\*



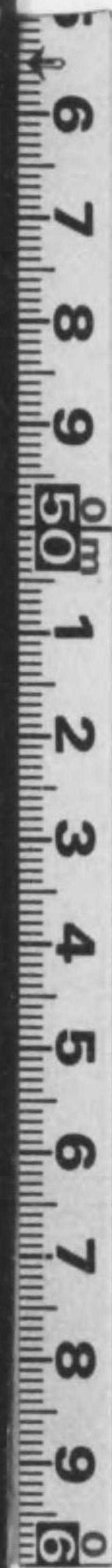
秋田縣勸業報文

第六十二號

明治三十三年三月刊行



秋田縣



始



凡例

- 一 本報は勸業に關する有益の事項を採録す
- 二 本報の記事は農事水産蠶業畜産山林鑛業商業工業氣象雜事の十部門に分つ
- 三 本報は記事の都合に依り隨時之れを刊行す

秋田縣内務部第四課

秋田縣勸業報文第六十二號目次

◎農事	一丁
◎秋田米	一丁
◎水産	十六丁
◎燻製及鹽藏鮓	十六丁
◎由利郡の製鹽業概要	三十二丁
◎蠶業	三十二丁
◎秋田縣の蠶種繭及生糸	三十九丁
◎畜産	三十九丁
◎秋田縣の牛馬	四十四丁
◎山林	四十四丁
◎森林植樹法	四十六丁
◎商業	四十六丁

◎商品集散及商況……(明治三十三年一月)……………四十八丁

◎工業

◎秋田縣の織物漆器及清酒……………五十丁

◎氣象

◎明治三十三年寒中の氣象及積雪量……………五十八丁

◎雜事

◎第二回各府縣實業會大會開催に付て……………六十二丁

秋田縣勸業報文第六十二號

◎農事

◎秋田米

左の一篇は客年開催せられたる第三回奥羽六縣聯合物産共進會出品の審査報告中本縣に係るものを抜萃したるものなり

中部(由利、河邊、南秋田の三部)由利郡の出品は品質色澤調製稍々佳良にして該縣中最優等の地位にあり殊に前回に比し著しく進歩せるは該地方の稻作改良に熱心なる結果漸く顯揚し來れるなるへし河邊南秋田二郡の如き地廻り米として秋田市場に稍々聲價を博しつゝあるの地なるも今回出品中一も優等なるものなし

南部(雄勝、平鹿、仙北の三部)仙北平鹿の出品に於て一二觀るべきものありと雖ども概して種類粗雜乾燥調製共に不良なり

北部(山本、北秋田、鹿角の三部)は南部と共に米質不良なり山本郡の出品殊に甚しとす以上秋田縣を通して概論すれば前回共進會に比し頗る進歩せるもの、如く特に品質及び調製

の點に於て著しとす然れども由利の一部を除けば種類粗雜乾燥甚だ不良にして貯藏に耐働へ  
 きもの多なく未だ秋田高取米の惡名を一洗せる能はざるは該縣の爲めに慨すべしとす縣内十  
 萬町歩の稻田愛育し殆んど米穀のみを以て一縣の生命を維持する該縣にして依然舊慣を脱す  
 る能はず改良の法進々たるか如き當業者醒覺するところ無くても可ならんや

稻作改良の法方たる種冷ありて保も要するに種類の撰定培養及土壤の改良等に歸すべし培養  
 上の改良案の如きは茲に評述するの限りにあらずは之を他日に譲り左には今回共進會調査成  
 績に由り種類及土質に就き少しく論述する所あらんとす

長種類の撰定は稻作改良の第一着手段なり種類にして種劣ならんか如何に培養等に注意を加ふ  
 るも勞多くして効少なく到底完全なる發達を遂ぐる能はざるなり然るに今回出品の種類を調査  
 するに前回に比し稍々長種の撰定に注意し劣種減少の傾向あるは悦ふべしと雖ども如此きは主  
 に稻作の進歩せる二三地方に止まり全体より論すれば未だ甚だ粗雜なるを免れず左に今回及前  
 回に於ける各縣出品の種類數を掲げ次に彼是を比較すべし

縣名	出品種類數	出品點數		
		第一回共進會	第二回共進會	第三回共進會
官 城 縣	一〇	二八九	〇三五七	三、五
福 島 縣	九二	一	一三四七	一、四
岩 手 縣	一三八	二八七	一三八九	三、五
青 森 縣	一一三	二一二	一八五	二、四七
山 形 縣	一五八	二九一	〇三一	三、四
秋 田 縣	一六二	三九二	〇四五五	二、六
平 均	一二八	二八六	二七五	三、五

前表に據れば出品點數に對する歩合均なく種類比較的一定に傾けるは宮城青森の二縣にして特  
 に宮城縣を以て長足の進歩なりとす前回及今回共に種類最も錯雜なるは秋田縣にして然も今回  
 は前回に比し更に其數を加へたり要するに宮城青森の二縣を除けば他は皆前回に比し出品點數  
 に對する種類數を増加せるか如き一は長種類を輸入し之を試作するもの多く所謂試験的時代な  
 るに由るなるべしと雖ども亦當局者の注意を要するところなりとす

各縣に於て多く出品せる種類に就き其出品點數受賞數及受賞歩合を掲ぐれば左の如し

岩	縣 嶋 福				縣 城 宮				縣名種類名	出品點數	縣總出品に對する出品歩合	受賞數	出品點數に對する受賞歩合	
千葉錦	關取	千葉錦	金生	信州金子	信州金子	千葉錦	半坊主	豐後	紫	白稻	一七一	二、六	二五	一、五
三〇	九	三六	四一	五三	一五	三二	六九	八二	八五	一、三	一、三	一一	一一、三	
〇、九	〇、三	一、四	一、六	二、〇	〇、二	〇、五	一、一	一、三	一、三	二、六	二五	一一	一一、三	
二〇	一	一四	一五	三一	九	一五	一四	一九	一一	二五	一一	二五	一一、三	
六、七	一、一	三、九	三、七	五、九	六、〇	四、七	二、〇	二、三	二、三	一、五	一一	二五	一一、三	

形 山			縣 森				青			縣 手			
千葉錦	大野	半坊主	信州金子	七霜	白鬚	嘉瀬早稻	相馬稻	細程	仙台坊主	信州金子	田子	豐後	白稻
一四	二二	二六	一六六	一一	二一	四九	六〇	九二	一一九	五	二一	二五	三〇
〇、三	〇、四	〇、五	三、三	〇、二	〇、三	〇、八	一、〇	一、五	二、〇	〇、一	〇、六	〇、七	〇、九
五	〇	三	五二	六	一	二	二	〇	二	四	二	〇	四
三、六	〇、〇	一、二	三、一	五、〇	〇、五	〇、五	〇、三	〇、〇	〇、二	八、〇	一、〇	〇、〇	一、三

縣	秋田				上州
	信州金子	名古屋白	大垣	千葉錦	
白鷺	六	一〇	一四	一八	二二
文六	〇、二	〇、三	〇、四	〇、五	〇、六
計	三	〇	四	四	〇
出品點數に對する受賞歩合	五、〇	〇、〇	二、九	二、二	〇、〇

前表に據れば各縣の米出品數に對し一種類出品點數の歩合最も多きは山形縣の信州金子にして約三割三分に當る之れに亞くは宮城縣の白稻福嶋縣の信州金子青森縣の仙台坊主にして共に二割以上にあり而して出品點數に對する受賞歩合を比較すれば信州金子及千葉錦の兩種は他種に對し著しく高度にあり其他山形縣の上州青森縣の七霜秋田縣の白鷺大垣等受賞歩合の多きものありと雖も何れも出品點數の尠なる未だ廣く各地に於ける適否を知るに由なし出品點數多くして受賞歩合亦多きは信州金子千葉錦に次て金生、半坊主、豊後、白稻、紫等あり今此等の良種類

に就き受賞等級別を掲ぐれば左の如し

種類名	六縣を通じての出品點數						受賞						出品點數に對する受賞歩合	
	一等賞	二等賞	三等賞	四等賞	五等賞	六等賞	計	一等賞	二等賞	三等賞	四等賞	五等賞		六等賞
信州金子	一	七	八	一六	二八	四七	一〇七	一	四	一	一	一	一	四、一
千葉錦	一	二	四	六	二〇	二六	五八	一	二	一	一	一	一	四、六
金生	一	一	二	二	五	八	一八	一	二	一	一	一	一	四、一
白稻	一	一	一	二	九	一六	二九	一	二	一	一	一	一	一、四
半坊主	一	一	一	一	四	一	一七	一	一	一	一	一	一	一、八
豊後	一	一	一	一	七	一〇	一九	一	一	一	一	一	一	一、八
紫	一	一	一	一	八	一	二一	一	一	一	一	一	一	一、三
上州	一	一	一	一	二	三	五	一	一	一	一	一	一	一、三
七霜	一	一	一	一	三	二	六	一	一	一	一	一	一	五、〇
白鷺	一	一	一	一	二	三	三	一	一	一	一	一	一	五、〇
大垣	一	一	一	一	三	三	四	一	一	一	一	一	一	二、二

前表に據て之れを觀れば各種類の優劣は頗る明瞭なり即ち出品點數の少なき上州以下四種は暫く措て論せず信州金子以下七種に就き出品點數に對する受賞歩合を比較すれば信州金子、千葉錦、金生の三種は最も多く共に四割以上に居る半坊主、豊後之れに亞き共に一割八分に白稻、紫は一割三四分に當る而して信州金子は千葉錦に比し受賞歩合は僅に少なきも(百に對して五)出品點數は其二倍以上に達するか故に之を償ふて餘あり然れども優等賞の者甚た多きを以て觀れば勝敗の數甚た明かなりと云ふへし金生も千葉錦に比し受賞歩合は僅に少なきも優等賞の歩合多き未だ遽かに峻贏を決し難きものあり白稻以下紫に至る四種亦優等の種類たるを失はずと雖も品質に於ては一步を前三種に輸するものと云ふへし

斯く論し來れば今回の共進會に於ける聯合各縣勝敗の主因を解釋すること甚た容易なりとす(風土の良否栽培の精粗等は暫く措き)福島山形二縣の成績最も優等なりしは信州金子、千葉錦の如き優良なる種類を多く栽培せるに由るなり宮城、岩手二縣の稍々之れに亞きしは第一流の信州金子に代ふるに第二流の白稻、豊後等を以てせるか故なり秋田縣の成績前回に比し稍々優等なりしは第一流の種類を栽培し始めたるに由るなり青森縣の成績甚た不良なりしは以上の良種類絶無にして品質不良なる仙台坊主、細稗、相馬稻等を撰定せるか故なり左の一表を見れば誰れ

が青森縣の爲めに氣の毒の感と興さへらんや

種類名	出品點數	受賞						合計
		一等賞	二等賞	三等賞	四等賞	五等賞	六等賞	
仙台坊主	一一九						二	二
細稗	九二							一
相馬稻	六〇						二	二
嘉瀬早稻	四九						一	一
合計	三二〇						五	五

右四種類の出品點數三百二十の内三等賞を得たるもの僅かに一、六等賞を得たるもの五、合計六點の賞を得たるに過ぎず然るに該縣中津輕郡の出品なる七霜種に見よ思半に過ぐるものあらん

種類名	出品點數	受賞						合計
		一等賞	二等賞	三等賞	四等賞	五等賞	六等賞	
七霜	一一二					一	三	二
合計						一	三	二

是に由て之を觀れば該縣今回失敗の原因は必しも風土栽培等にあらすして種類の不良なるにあ

ること証し得て餘りありと云ふへし種類選擇の忽諾に附すへからる此の如し當業者深く鑑みる  
 ところ無くして可ならんや

或は曰はん良品質の種類を選擇するの必要は業既に之れを了せり然れども品質優等なるもの收  
 量必しも多からず單に品質に取りて收量を顧みざるか如きは農家經濟の許さゝるところなり故  
 に經濟を基礎とする農家は寧ろ品質を捨て、收量に取らんと然り與羽今日の米質に對する米價  
 より打算し來れば品質よりも重きを收量に置くべきは經濟上自然の趨勢と云ふべく小官と雖も  
 單に品質を以て種類の良否に最終の斷定を下すものにあらず品質收量共に優等なるものを採り  
 て以て當業者に勸誘し其栽培を擴張せしは初めて完全なるを得へしとするなり依て左に上記載  
 せる品質優等なる各種類に就き與羽現在各農事試驗場の最近試驗成績を掲げ以て其收量を比較  
 せんとす但表中の數字は一反當玄米收量を示す

種 類 名	國立農事試驗場		縣立農事試驗場		郡立農事試驗場	
	東農交場 (年九)	陸羽交場 (年九)	福島縣 (年三)	山形縣 (年三)	秋田縣 (年三)	山形縣 (年三)
信州金子	1,136.3	1,136.3	1,136.3	1,136.3	1,136.3	1,136.3
千葉錦	1,136.3	1,136.3	1,136.3	1,136.3	1,136.3	1,136.3

種 類 名	東農交場 (年九)	陸羽交場 (年九)	福島縣 (年三)	山形縣 (年三)	秋田縣 (年三)	山形縣 (年三)
半坊主	1,155.9	1,155.9	1,155.9	1,155.9	1,155.9	1,155.9
金生	1,155.0	1,155.0	1,155.0	1,155.0	1,155.0	1,155.0
豐後	1,175.5	1,175.5	1,175.5	1,175.5	1,175.5	1,175.5
紫稻	1,167.4	1,167.4	1,167.4	1,167.4	1,167.4	1,167.4
白稻	1,193.6	1,193.6	1,193.6	1,193.6	1,193.6	1,193.6
上州	1,193.6	1,193.6	1,193.6	1,193.6	1,193.6	1,193.6
五家	1,193.6	1,193.6	1,193.6	1,193.6	1,193.6	1,193.6
關取	1,193.6	1,193.6	1,193.6	1,193.6	1,193.6	1,193.6
仙臺坊主	1,193.6	1,193.6	1,193.6	1,193.6	1,193.6	1,193.6
細粒	1,193.6	1,193.6	1,193.6	1,193.6	1,193.6	1,193.6
白蠶	1,193.6	1,193.6	1,193.6	1,193.6	1,193.6	1,193.6
嘉瀬早稻	1,193.6	1,193.6	1,193.6	1,193.6	1,193.6	1,193.6
名古屋白	1,193.6	1,193.6	1,193.6	1,193.6	1,193.6	1,193.6
文	1,193.6	1,193.6	1,193.6	1,193.6	1,193.6	1,193.6



標準	各農事試験場十種平均									
	四	十	七	五	五	十	四	四	三	三
大垣	1,252									
白鷺										
平均	40	75	50	50	40	43	34	33	36	27
種	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
平均	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100

備考 七霜は何れの農事試験場でも未だ試作せるを見ず依て其收量如何を知るに由なし  
 と雖も青森縣に於て仙臺坊主細稈等より懸伏せらるゝに據て推考すれば收量多き種類に非ざるへきか東奥支場三十年度の稻作凶作なりしに由り前表には殆んど平年作なる二十九年度の分を掲げたり

前表に據り前記各種類を其收量の多寡に由り三等に類別すれば左の如し

- 甲 標準に比較して收量多きもの豊後、信州金子、千葉錦、上州、紫、五家、金生、細稈、白稻、半坊主、仙台坊主、關取
  - 乙 收量中等なるもの名古屋白、嘉瀬早稻
  - 丙 收量比較的少なきもの白鬚、文六、大垣、白鷺
- 備考 仙台坊主は三十一年度陸羽支場の成績に於て收量少なかりしは稻熱病の被害甚しき

に由る又關取は東羽支場二十九年度の成績に於て不良なるも同支場の三ヶ年平均陸羽支場二ヶ年平均成績に於て收量優等なりしに由り何れも之を甲の部に加へたり

是に由て之を觀れば信州金子、千葉錦、金生、半坊主、豊後及上州の六種は品質收量共に優等なるを知るべく(各種類中に階級あるも)白稻及紫の二種は品質稍々前六種に劣るも收量は相伯仲す品質及收量と共に種類撰擇上必然注意を要すへきは其熟期なりとす品質收量共に優等なるも暖國の晚稻は之を寒國に移せば熟期遅滞し年柄により危険の虞なしとせず依て左に前記八種の長種類比較の爲め氣候最も冷涼なる青森縣の仙臺坊主及細稈を加へて十種類の成熟期及各試験場に於て區別せる早中晩の稱呼を掲ぐへし但し明治三十年度の成績を示す

種類名	成		熟		早		中		晩	
	陸羽支場	山形縣農事試験場	東奥支場	福嶋縣農事試験場	陸羽支場	山形縣農事試験場	東奥支場	福嶋縣農事試験場	陸羽支場	山形縣農事試験場
信州金子	10月11日	10月11日	10月11日	10月11日	中	中	中	中	中	中
千葉錦	10月11日	10月11日	10月11日	10月11日	中	中	中	中	中	中
紫	10月11日	10月11日	10月11日	10月11日	中	中	中	中	中	中
半坊主	10月11日	10月11日	10月11日	10月11日	中	中	中	中	中	中

仙臺坊主	10.19					晩			
細科	10.7		11.5		中	中			
金生			11.5				晩		
上州		10.111					中		中
豊後	10.111		10.111		晩			中	
白岩手縣西農 井試験場	10.17 三十一								

前表に擔り各種類成熟の順序を觀るに各試験場の成績多少相一致せざるものありと雖も要するに上州及金生の特に晚きを除けば各種類間に甚たしき相違なく概して中稻なりとす農事試験場陸羽支場の成績に據れば細科最も早く千葉錦、信州金子之に亞き仙臺坊主、半坊主、豊後又之に亞き上州は最も晩かりし是に由りて之を觀れば仙臺坊主の栽培盛なる青森縣に於て信州金子、千葉錦の兩種は之を收穫するに於て容易なるへし

備考 小官(米審査官農事試験場技師加藤茂苞)は信州金子、千葉錦を以て必しも無上の良種類なりとするものにあらずと雖も今日奥羽地方に於て實際に栽培せらるゝ種類中蓋し優

品なるを信す尤も稻熟病老くは肥料の過剩等に對し最も強健なるは秋田縣の宇兵衛(品質劣等)宮城縣の豊後等を推すへく信州金子、千葉錦は之に對し稍々中位にありと雖も容易に此病に罹る所の大野、仙臺坊主、嘉瀬早稻等の如く甚しく弱きにあらす又信州金子、金生の兩種は米粒稍々小なるも外國輸出に見込なき奥羽米としては嫌ふべきところなく形狀長短宜しきを得白色透明にして光輝あるは此種の特色なり而して草丈及穂短きか故に一見收量少きか如きも分蘗の多き之を補ふて餘りあり千葉錦は米粒稍々大なるも色澤暗濁に陥り易すきの欠點あり白稻稍々之に類し繁は形狀大なるも短きに失し且つ粗大の欠點あり今回の出品は持に甚し半坊主は米粒小にして短く上州は小にして長く共に光澤あり豊後は形狀稍々可なるも品質色澤に於て欠點ありとす(以上は陸羽支場に於ての實驗及今回共進會の調査成績に據る)

之を要するに當時者たるもの能く各地に於ける農事試験成績に注目し良種類の撰擇を怠らすは常に勞少なくして効果を收むること大なるへし

二 土 質

小官は既に種類の部に於て紙數を重ねて論究せり土質に就ては再び深く説述するを避け唯左の

一條を陳して之れを終らんとす  
 抑も稻栽培に關し土壤の備ふべき要點は適度の吸收力滲透性なり吸收力弱ければ肥料中の養分  
 に損耗を來し殊に過度の滲透性之に伴ふときは此損失愈々大なり之れに反して其土地にして滲  
 透性多きに過くるときは土中空氣の缺乏を來し酸性腐植質硫化物又は亞酸化物等の害を被るを  
 免れずと雖も比較的滲透性多きに過くるの土壤即ち軟砂土、砂壤土の如きは稍々多量の肥料を  
 用ふれば相當の收穫を得且つ品質良好なる米を産すへし之に反して滲透性に乏しき粘土、粘壤  
 土に産する米は品質概して粗劣穀粒軟弱にして脱稈精白に耐ゆるの力に乏しく碎米を生し易し  
 腐植質土壤に於て特に甚しきか如し故に品質良好なる米は比較的滲透性に富める土壤にあらざ  
 れは容易に生し難きものとす今之れを証せんか爲め今回共進會出品米中三等賞以上を得たるも  
 のに就き其解説書に據り土質を調査せるの結果は左の如し

栽培土壌	受賞			合計
	一等賞	二等賞	三等賞	
砂利若くは砂土に栽培したるもの	1			2
砂壤土に栽培したるもの		4		4
壤土に栽培したるもの			5	5
				3
				8
				12
				2
				8

前表の如く品質優等なる米は滲透性に富める砂壤土に栽培せられたるものに最も多く壤土之に  
 亞き腐植土、砂土は遙かに劣れり特に二等賞以上を得たるものは砂壤土、壤土に甚た多きを見る  
 へし砂多き地に生せる米は概して色白く光澤あり且つ堅硬なるもの、如く之に反して粘土質土  
 壤に生せる米は暗褐色を呈し易しとす山形縣西田川郡鶴岡町秋田縣由利郡矢嶋町の如く毎回優  
 等米を産するの地は多くは砂壤土なるを以て見れば比較的滲透性に富めるの地は概して稻作に  
 適當なるを確め得へし故に強粘性の稻田は農閑に積雪上より漕にて運搬すれば最も便なり川  
 砂若くは砂土等の容入を試み兼て排水を完全にし土壤の改良を怠らすは從來の惡田變して良田  
 たるを得へし敢て當業者の注意を促す

◎ 水 産

◎ 燻製及鹽藏練

左記の一篇は農商務省水産局に於て燻製及鹽藏鯨の海外試賣の顛末を調査し其各地品評の如何を查察し以て製造方法上の注意を記述せられたるものにして大に斯業上の参考となるべきを以て摘録せり但し本調査書完了後出来せし記事に就ては本縣に於て稍加筆したる所あり

○試賣顛末調書

●燻製鯨

鯨の燻製法は夙に歐米に行はれたれども本邦に於ては從來殆んど肥料に供せられ食用としては唯其の一部分に過ぎざりしなり然れども食用と肥料とは同一材料を以てして價格に大差あるを以てすれば出来得る限り之を食用に供するを得策なりとす特に多獲ある鯨の如き之を燻製にすれば歐米人の嗜好に適し之を鹽漬にすれば清國其他に需用あるを以て肥料を轉して食用となすこと必要なり是に於て元水産調査所は明治二十六年青森縣西海岸の漁業組合に囑托して之が試賣を爲し製造品を海外市場に輸りて品評をなすしめたり翌明治二十七年青森縣有志者該製造を爲さんとするに方り水産調査所より技手を派遣し之が試験を監督せしめたり明治二十八年は水産調査所技手を秋田縣能代町に派遣し燻製、鹽漬等の試験をなし其の製品を海外に輸りて品評を求めたり明治二十九年は秋田縣能代實業會の申請に依り技手を派遣して復其の製造を監督せ

しめたり此の如くして試製したる燻製鯨は明治二十七年に一萬六千尾明治二十八年に千五百尾明治二十九年に一萬五千尾に至れり而して明治二十七年青森に於て燻製鯨一萬尾の製造に要せし費用は大畧左の如し

鯨壹萬尾買入代	四〇、〇〇	但し走り鯨中鯨平均四百尾に付壹圓六拾錢一尾四厘の割
食 鹽	七、二〇	改良鹽十俵但し四斗俵製造地着一俵七拾貳錢つゝ、
薪	四、五〇	但し薪一棚半一棚三圓替
鋸	二、一〇	三十俵一俵七錢替
藥品代	一、〇〇	
人 夫 賃	一一、二五	一人一日貳拾五錢四十五人分内五人宛五日一人宛二十日分
器械修繕費	五、〇〇	
煙室構造費	二〇、〇〇	但し煉室一ヶ所建坪十坪建設費金百圓とし五ヶ年保存の見込にて一ヶ年使用分

合 計 九六、〇五

右の計算に依れば製品の原價は一尾金九圓六毛に該當せり青森縣の報告に依れば産地に於ては

一尾最低賣錢より最高賣錢五厘にて販賣せりと云ふ  
 明治二十八年元水産調査所は右燻製鯨を海外各地の領事館に依頼し當業者の品評を求めたるに  
 其の要領左の如し

布	哇	ホ	ノ	ル	府
日本商業組合	ルイス	マツク	チエニ	マツク	イソト
配付數量		十五封度入の箱	にて四五十仙な	獨乙人葡國人間	少量
賣買價格				に需用せらる	
販路の廣狹	極めて狭少				
需用の時期					
品評	品質米國産に勝る	善長	善長なれども永く貯へ難し	善長歐米品に劣らず	外形美ならず品質は善長なり
將來の見込		將來の需用疑なし	少しく販賣するを得へし	需用甚た僅少ならん	カリホルニヤ産と價格の點に於て競争し得るや否
新規注文の有無			十五封度入二十函の送付を乞		

北	米	合	衆	國
北	米	合	衆	國
加	奈	太		
競争品の價格	米國産四十尾入四十仙	桑港産百尾入一弗五十仙	米國製一尾二仙	カリホルニヤ産は四打入一函廿五仙の廉價なり
配付數量	桑港エンド、レベンパン商會	ウエーパ氏會社	桑港アイムムパ	雪野銳次郎
販路の廣狹				
需用の時期				
製造品評	鹹味強く香氣度を失せり	香味共に善長	稍々善長なれども米國製に比し不完全なり	
將來の見込	米國及那威品と競争し得るや難し	價格低廉なれば相當の需用あらん		
新規注文の有無				
競争品の價格				

製造品評	鹽分過度西洋人の嗜好に 不適	腹を割き臍を去り燻法 を十分にすへし	箱詰の前時日を経過せし が又は濕氣あるものを詰
需用の時期	支那人に不適西洋人若く は船舶に需用あり	支那人に不適西洋人少し く需用あり	
販路の廣狹	支那人に不適西洋人若く は船舶に需用あり	支那人に不適西洋人少し く需用あり	
成 績			
賣 買 價 格	五十尾入一箱七拾五錢乃 至八拾五錢	一箱五志位	
配 付 數 量		三箱(一箱五十尾入)	
配 付 數 量	日 下 部 商 店	三井物産會社	ラングフオールド會社
香 港	濠州メルボルン		

八百六十尾は内地重なる市場に販賣し二萬千四百四十尾は海外に試賣し且つ品評を求めたり今此  
前後二年の品評を比較するとき其の技術も進歩したるを証すべく販路も亦確實なるに至りた  
るを知るを得れども製造の規模未だ小にして十分新なる注文に應ずるを得ざるか如きは大に遺  
憾とする所なり左に明治二十九年及三十二年の海外各地の品評を摘記して参考に資す

明 治 二 十 九 年

要するに明治二十八年送付せしものは未だ創始に屬し海外販路に十分なる成績を收むること能  
はざりき明治二十八年秋田縣能代實業會も亦始めて燻の燻製をなし之を海外各地に送りて品評  
求めたることあり爾後引續きて製造に従事し昨三十二年の如きは製造高八萬七千尾内六萬五千  
新規注文の有無

試賣價格	冬三ヶ月間に 止まる						
販路の廣狹							消費者僅少
需用の時期	止まる						
製造品評	本州に於ては鮮 魚多きを以て將 來の見込立たす	廉價なれば將來 販路を得るに難 し	同上	同上	同上	同上	同上
將來の見込	本州に於ては鮮 魚多きを以て將 來の見込立たす	廉價なれば將來 販路を得るに難 し	同上	同上	同上	同上	同上
新規注文の有無							
競争品の價格	每封度八九仙 「旧米國産」	米國製百尾に付 凡そ一弗					

競争品の價格

每封度八九仙  
「旧米國産」

米國製百尾に付  
凡そ一弗

製造品評

鹽分過度西洋人の嗜好に  
不適

腹を割き臍を去り燻法  
を十分にすへし

箱詰の前時日を経過せし  
が又は濕氣あるものを詰

需用の時期

支那人に不適西洋人若く  
は船舶に需用あり

支那人に不適西洋人少し  
く需用あり

販路の廣狹

支那人に不適西洋人若く  
は船舶に需用あり

支那人に不適西洋人少し  
く需用あり

成 績

賣 買 價 格

五十尾入一箱七拾五錢乃  
至八拾五錢

一箱五志位

配 付 數 量

三箱(一箱五十尾入)

配 付 數 量

日 下 部 商 店

三井物産會社

ラングフオールド會社

香 港

濠州メルボルン

將來の見込 改良せは一二千尾位は賣行あるへし

めしか不買のもの多し

新規注文の有無

競争品價格 米國産三尾入卸賣二十仙

案するに當時配付せし燻製鯉の容器及荷造の方法當を得ざりしを以て腐敗したるもの多きか如し現にメルボルン魚市場魚類検査官ジョン、レウキスはラングフオールド會社に到着したる燻製鯉を検査し内十一箱は人類の食用に適せず依て之を廢棄すへしと申渡したりと云ふ又當時ラングフオールド會社が領事を経て報告せし勘定書諸入費は左の如し

賣上	燻製鯉	一箱	二志六片	手數料	二志
諸入	市場稅	同	五志	車馬賃	六片
費	車馬賃	三箱	三志つゝ	輪八稅	二志六片
	輪八稅	一箱	三志六片	埠頭稅	十五志
	埠頭稅	同	一志六片(箱弛開せり)		二志三片

同	合計	十一箱	腐敗	稅關手數料	二志六片
同	合計	一磅一志六片	敗	合計	一磅四志九片
差引三志三片 不足					

明治三十二年分

製造品評	需用時期	販路の廣狹	成蹟	賣買價格	配付數量	植木商店	日東洋行	英米物產會社	新嘉坡
製造可なれども大小混同するは欠點なり	十月より翌年三月迄			四拾八圓一尾壹錢六厘餘	二十四尾入十二罐八箱	植木商店	日東洋行	英米物產會社	新嘉坡
				好評忽ち賣切れたり		支那人に不適出	外國人に需用あり	英國艦隊及米國マニラ凱旋隊に需用あり	支那人に不適西洋人に適す
						支那人に不適出	外國人に需用あり	英國艦隊及米國マニラ凱旋隊に需用あり	支那人に不適西洋人に適す
						三干尾			六罐(一罐十尾入) 四弗六十八仙
									腐裝及罐付法不完全なり

將來の見込	一ヶ年に二三 萬尾の需用あら
新規注文の有無	二三十箱を送付 せられたし 尙五十箱を至急 送られたし 露國産侮とるへ からす
競争品の價格	二百箱送付せら れたし 何程にても送付 せられたし

右最近の報告に依れば數年の間經營したる薫製鯨も漸く海外に販路を生したるか如く追々新たなる注文を受くるに至り秋田實業會は昨年末十二罐詰十函(二千八百八十尾)を六拾圓にて上海  
 楠木商店に送付し福州日東洋行及橫濱英米物産商會へは品切にて其の注文に應じ難きを以て本  
 年製造の後送付する筈なりと云ふ尙海峽殖民地セラニエール富田千代吉よりの注文に對し二十  
 四尾入一罐殖民地着七拾五錢は高價なれば試賣見合方を申越せりと云ふ  
 内地各地に試賣を依頼せし分は其の成績良好なりと聞くのみ未だ報告なきを以て之を詳にする  
 能はずと云ふ

●鹽 藏 鯨

鹽藏鯨も亦薫製鯨の如く海外に販路を有するものなれども從來本邦製は鹽漬鯨にして皆内地銷  
 費を目的とするを以て製法粗雑にして久しく貯藏に堪へ難く到底海外に輸入するに適せざるこ

と勿論なれば元水産調査所は明治二十六年青森縣下に於て鹽藏の試験をなし明治二十八年には  
 秋田縣下に七千尾を試製し海外領事館に托して營業者の品評を求めたり其の報告を摘録すれば  
 左の如し

明治二十八年

布 哇 ホ ノ ル 、 府	日本商業組合	ル イ ス 商 會	マ ッ ク チ エ ス ニ	マ ッ ク イ ン ト ル	メ ー 商 會
配付數量			百封度入三弗位		
評 價	米國産に比し品 質甲乙なし 米國産と雖も一 年四五樽に過き されは狭少の販 路ならん	品質可なれども 鹹味多きに過く 永く保存し難し	品質可なれども 永く保存し難し	品質善良	善良
製造品々評				極めて少なし	極めて狭少
販路の廣狹				日本人間には賣 行あらん	
將來の見込	賃價なれば日本 労働者葡國人等 に多少見込あり 原價を通知せら れたし當組合中	二或は三ガ ルロの樽に入る へし需用疑なし	半パ ーレル(百封 度入)二十樽の		
新規注文の有無					



競争品の価格	に試賣せんとす るものあり	送付を望む	米國製一(バー レル)二百封度 入)七弗五十仙
競争品の価格	米國産は百斤樽 四弗強なり	米國産のもの桑 港より輸入せり	米國製一(バー レル)二百封度 入)七弗五十仙
評 價	桑港エンドハン バム商會 アイケレバীগ グエード氏 タコマ市商業會 議所 雪野銳次郎		
製造の品評	獨乙製の如く味 美ならず且香氣 乏し	製法當市場の需 用に適せず香氣 なきは大缺點な り	ボートランド二 百封度入一樽四 弗のものど比較 し得へし併し到 底高價に賣捌き 難し
販路の廣狹			
將來の見込	當國人の嗜好に 適せず殆んど見 込なし	中等以上の食品 に適合せず下等勞 働者には或は需 用あるや知るへ からず	品質佳良なれば 合衆國內に販路 を求むる困難な らざるへし
新規注文の有無			希望者少なから されども價格不 明なるを以て販 賣の契約をなす

競争品の価格 獨乙製なり 能はず

要するに今回は未だ創始に屬するを以て充分の販路を調査する能はずとも布哇米國何れもト等  
労働者には需用の望みあり  
明治二十九年元水産調査所技手を秋田縣に派し一萬五千尾の鹽藏鯨を製造したり  
秋田縣能代實業會は明治二十八年より蒸製鯨製造の傍鹽藏鯨を製造し内地に販賣したりしか其  
の結果良好なりと云ふ

○製造上の注意

●蒸 製 鯨

- 一 魚の大小を區別して少なくとも一打は其の寸尺を均一にすへし
- 一 魚は新鮮なるものを撰ひ形状の損せざる様注意して鯨及腸を筒拔し卵を存す(魚全體のまま  
製するも可なり)且つ成るべく鱗の剝落せざることに注意すへし
- 一 魚は走鯨を用ふへし萬巴むを得されは中鯨までのものに限る
- 一 初め大桶又はタンクに三度位の稀鹽水を湛へ之に鮮魚を投し變色するを防ぎ置き手早く處

理し(鰓及腸を去り)別に湛へ置きたる三度位の鹽水に入れ血抜をなし再び三度の換水中に投し一夜間放置し(華氏四五十度の氣温の時は三度位にて可なれども若し五十度以上なれば五六度の鹽水となすへし)翌日之を箆に上げ更に十二三度の立鹽に漬込み四日乃至六日間(肉中に十分鹽の滲透するを度とす)にして箆に揚げ淡水にて洗ひ別に汲置きたる淡水に浸し凡そ半日間(食ふて少し鹹味を感ずるを度とす)にして引上げ水を切り鰓より串に通し(串は長二尺五寸位なれば魚十二尾乃至十五尾を刺すを度とす)魚の互に密接せざる様に注意し一日若くは一晝夜間陰乾若くは風乾し表皮の「ベタツカユ」丈けに乾きたるを度として乾燥室に入るへし

一 薰製室には朝八時頃より火を入れ暮前に火を消すへし薰材は必ず柏、柏、山毛櫸等のタンニ一質の多きものにして且つ能く乾枯れたるものを用ひ錫屑も亦之等の材を選ふへし温度は華氏六十度位にして少しは火の燃る位にて燻す低き温度にて長く燻するを可とするを以て七十度以下にて連日之を燻す凡そ二週間(日中のみ)を経れば魚體金茶色を帯ひ之を指頭に摘みて體心に柔かみを感ずるときを度とす取下ろし一日間日乾し成る可く速かに之を鉄葉罐に詰むへし

一 鉄葉罐は二十四尾入長形罐を宜しとす(長一尺巾六寸二分深さ二寸八分位)罐に詰むる時紙片

若くは小刷毛にてオリーフ油を少しく魚體に塗り後臘紙に包みて罐納し密封すへし

● 鹽 藏 鯨

一 血抜するまでは燻製鯨に同じ大抵原料の二割(魚十貫目に付二貫目の割)の食鹽を用ひ樽に漬込み適宜の重壓を施し其の上より二十度乃至二十五度の立鹽を注ぎ魚體の液中に全く沒了するを度とす三週間乃至四週間放置し正味百封度入の樽(歐米及濠州向)に漬込む魚を樽に漬込むには最初の一個頭を内に向くれば他は外に向くる等順次頭尾を交互にし且つ必らず毎層食鹽を撒布するを忘るへからず詰め終れば蓋を打ち蓋に小孔を穿ち是より二十五度立鹽(飽和溶液)を注ぎ樽中に少許の空處もなからしめんことを要す

一 清國外各地に送る百封度入の樽は太鼓形(麥酒樽の如し)に造り一樽に八個の鐵製半箍(上下端の二箍は厚さ各二分巾一寸のもの他の六個は厚さ一分巾一寸のもの)を嵌入すへし清國に送るものは通常の樽形にて可なり特に堅牢に造り正味百斤(十六貫目)入となす清國向は密閉後鹽汁を注入する代りに詰込みの際一層毎に必ず撒鹽をなすへし

一 樽の用材は樽、山毛櫸、澤胡桃等を用ふへし

● 鹽 乾 鯨

一腹を少しく割き腸を去り膠を除き鱗の剝落せざる様に注意し八度乃至十度位の立鹽にて一週間位漬け淡水にて洗ひ日乾す日乾の度は體を摘みて體心に柔かみを感ずる時を宜しとす速かに之を箱又は樽に百斤(十六貫)つゝ入れ密閉すべし

●製造用食鹽

一是等製造に要する食鹽は最も精撰せざるべからず在來の夾雜物多きものを用ふれば魚に苦味を付し色澤を損し貯藏に堪へざる等種々不利益を招くものなれば製造者は此に注意せんことを要す故に食鹽は英國製獨國製内地製の古積を用ふべし若し臺灣産を用ふれば飽和溶液となし濾過して後使用すべし支那産亦同し

◎由利郡の製鹽業概要 (勸業報文第五十一號參照)

本郡に於ける鹽業は揚濱法に依るものにして播水濾水製法其他は概要以下記す所の如し

第一 播水法

播水法とは海水を砂地(鹽濱)に散布し日光の力を以て水分を蒸發せしめ海水中に含有する鹽分を砂面に附着結晶せしむるものにして其方法は午前六時頃「砂播」を以て鹽濱を平面に均らし一反歩に付「引桶」凡そ六個を配置し之れに「桶」を以て海水を汲み上く汲み上げを終りたる後「カ

シナギ」を以て其海水を鹽濱一面に散布し更に「引桶」に海水を汲み上げ濾水の用に供す

鹽濱に散布する海水の量は一坪に付凡そ五升とし天候の如何に依りて増減す又温度強くして乾燥速かなるときは二回海水を散布す

第二 濾水法

濾水法とは前段の方法に依り鹽分を附着せしめたる砂を濾過し鹹水を採取する方法を云ふものにして午後四時頃鹽濱に於ける表面の砂を「砂播」を以て畝形に集め集めたる砂を「モッコ」にて「込桶」に充たし之れに「引桶」中に充たしある海水を注ぎて鹽分を溶解せしめ最初滴下したるもの(「トロベ」にて一個)を眞水と唱へ溜桶に貯ふ而して「込桶」に注ぐ海水量は凡そ二斗五升にして「トロベ」一個に滴下したるものを除くの外は第二の「込桶」に注入し以て鹹水を濃厚ならしむ其鹹水の比重は時期に依り異なるも夏期に於ては十五度内外とす

右の方法に依り採收したる鹹水を貯藏桶(口徑六尺高六尺のもの通常二個を備ふ)に貯へ再び細砂を以て濾過し水中の塵芥を去り之れを煮釜に移す

第三 釜屋

釜屋は間口五間半奥行四間半にして入口二個を設け向屋上には南北各一間四方の窓を設けて水

蒸氣の昇散を速かならしむ

第四 釜 及 竈

釜は二個にして一を本釜と唱へ一を温め釜と唱ふ本釜は長七尺幅六尺深さ四寸温め釜は長六尺幅三尺深さ七寸何れも厚一分五厘の鉄板を以て製作す

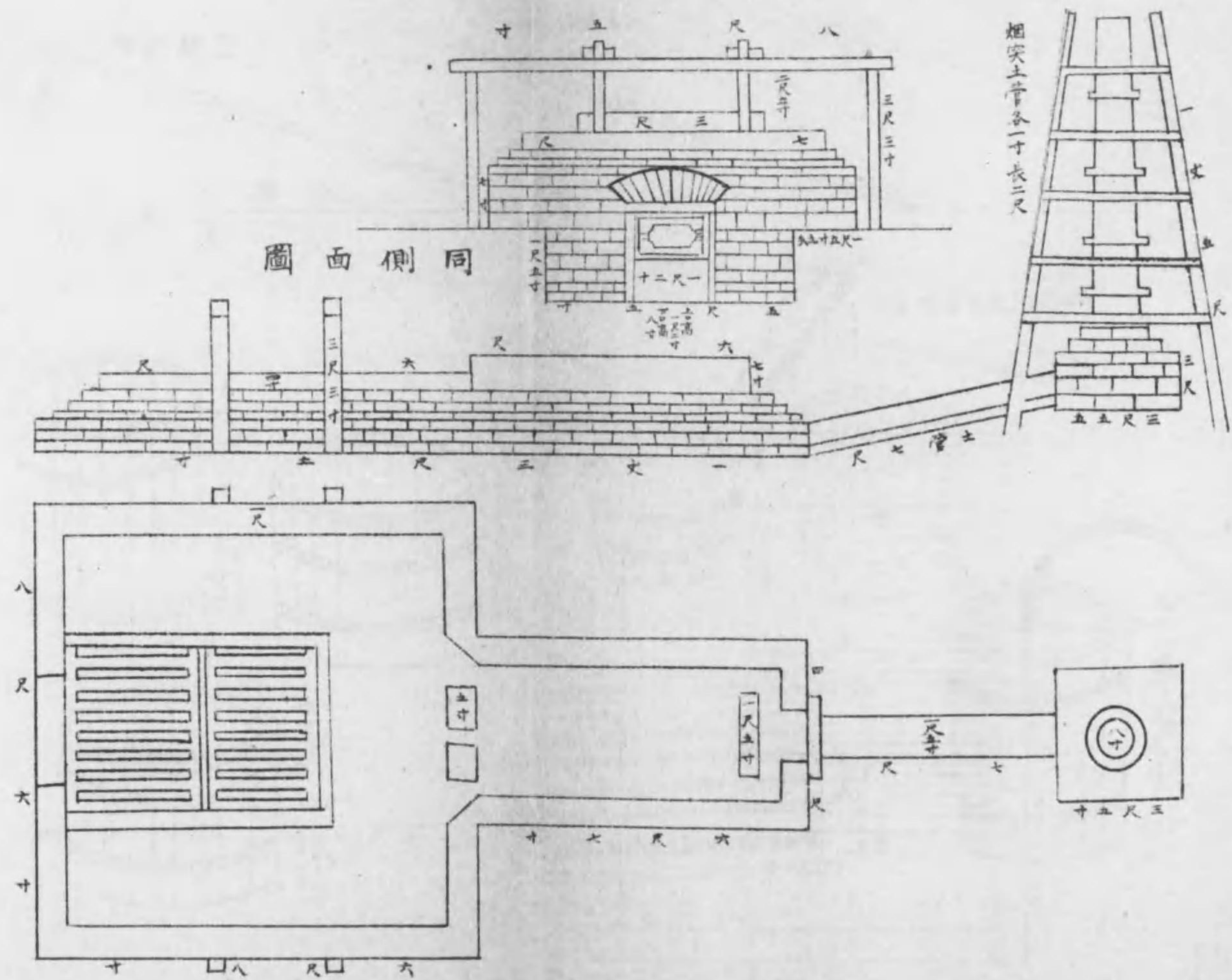
竈は煉瓦又は粘土を以て造り其構造は西洋竈築造と同じ而して二個の釜を使用するは火力を利用する爲めにして後部に据付ある温め釜に於て冷水を六十度乃至七十度ならしめ本釜に移せし後沸騰を速かならしむるを目的とす

第五 製 法

貯藏桶に貯へたる鹹水を更に細砂を以て濾過し之を本釜及温め釜に移し(其量は本釜一石五斗温め釜は一石七斗)沸騰迄の間は火力を強め沸騰後は火力を緩ならしむ是れ鹽質を良好ならしむる爲めなり其焚上の回数は一晝夜五回之を爲すことを得べく焚上を爲したる鹽は凡そ十時間砂を充たしたる臺上に置きて苦汁を去らしむ

收鹽の石數は比重の如何に依り異なり之れを詳記すること能はさるも初回の製鹽試験成績は別表の如くなりし

電釜正面圖

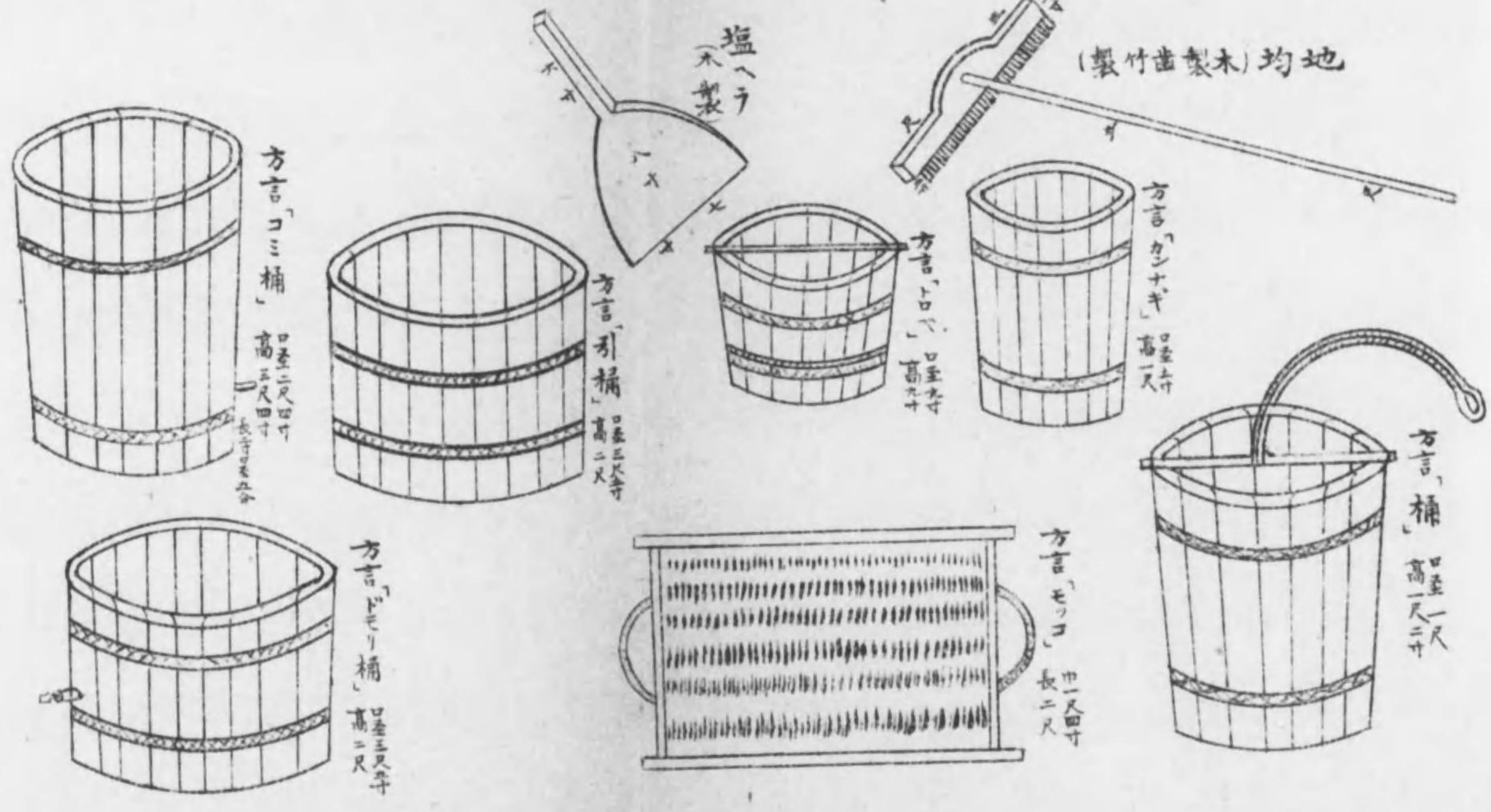
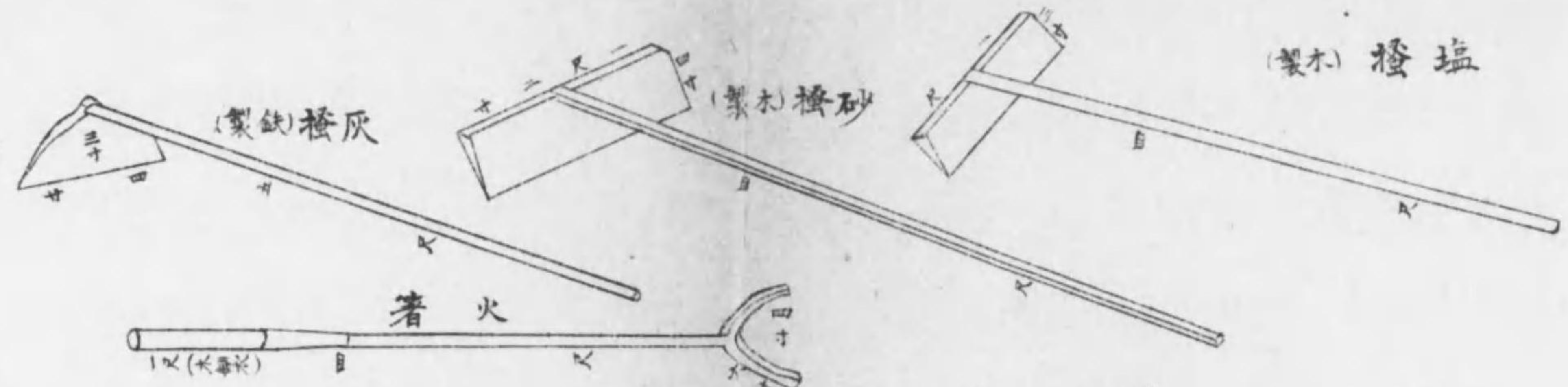


幅三尺深さ七寸何れも厚一分五厘の鉄板を以て製作す  
 竈は煉瓦又は粘土を以て造り其構造は西洋竈築造と同じ而して二個の釜を使用するは火力を利  
 用する爲めにして後部に据付ある温め釜に於て冷水を六十度乃至七十度ならしめ本釜に移せし  
 後沸騰を速かならしむるを目的とす

第五 製 法

貯藏桶に貯へたる鹹水を更に細砂を以て濾過し之を本釜及温め釜に移し(其量は本釜一石五斗  
 温め釜は一石七斗)沸騰迄の間は火力を強め沸騰後は火力を緩ならしむ是れ鹽質を良好ならし  
 むる爲めなり其焚上の回数は一晝夜五回之を爲すことを得べく焚上を爲したる鹽は凡そ十時間  
 砂を充たしたる臺上に置いて苦汁を去らしむ

收鹽の石数は比重の如何に依り異なり之れを詳記すること能はさるも初回の製鹽試験成績は別  
 表の如くなりし



第六 製鹽に關する收支

本郡に於ける鹽業は各戸家族を以て爲し居れるが故に收支の計算を詳かにすること能はず然れども夏期に於ける試験の結果を擧ぐれば左の如し  
一反歩に對する一日の收支

支 出

播水 濾水 人夫	六二〇	女三人一人金拾三錢 男一人一人金貳拾五錢
火 夫	一八〇	男一人金拾八錢
燃 料	三九八	一貫目金壹錢
計	一、一八八	

收 入

採收 鹹水 量	三石	
收 鹽 量	五斗	
同 上 價 額	壹圓五拾錢	一石三圓と見做す

製造試験表

鹹水重量	一石四斗
比重	一、〇七〇
温度	一、八
點火時間	十二時
沸騰時間	〇時五十五分
沸騰迄の薪	十二貫七百目
沸騰後の薪	十七貫九百目
薪合計	三十貫六百目
時間合計	三時四十五分
收鹽量	一斗五升三合

本試験は一回の製造なるか故に薪と時間とを要すること多きも第二回に至らんか温め金に於て温めたるものを移すか故に薪に於て十二貫目時間に於て五十分を減す

起業費用

釜屋築造費	一棟	金六拾五圓五拾八錢
釜製作費	一個	金貳拾五圓貳拾八錢五厘
温め釜製作費	一個	金拾貳圓五拾錢
竈烟突築造費	一個	金九拾貳圓貳拾三錢
貯藏桶	三個	金六拾七圓五拾錢
引モリ桶	三個	金六圓
引桶	四個	金六圓八拾錢
込桶	七個	金拾圓五拾錢
トロベ	四個	金壹圓五拾錢
カンナギ	一個	金貳拾五錢
水汲桶	四振り	金貳圓四拾錢
地均	二枚	金四拾錢



砂	播	四	個	四個金四拾錢
火	箸	一	個	壹圓
灰	播	一	個	壹圓
鹽	ヘ	一	個	五錢
モ	ツ	二	個	二個金五拾錢
鹽	斗	一	個	金拾錢
計金貳百九拾三圓九拾九錢五厘				

● 蠶 業

◎秋田縣の種蠶繭及生糸

左の一篇は客年開催せられたる第三回奥羽六縣聯合物産共進會出品の審査報告中本縣に係るものを抜萃したるものなり

○ 蠶 種

秋田縣 本縣内には夙に蠶種の改良に勉めしものありと雖も今回の出品者は從來盛んに製造したるにあらす概ね未熟の製種家なるか爲めか品位劣等にして寧ろ粗製なりと云ふを憚らす程製にありては廢棄卵區多く且一枚の蠶種にして各卵區の形狀廣狹異なるものあり或は油染ある普通製は甚しく厚附に過ぎ色澤形狀亦不齊にして顯微鏡的検査の成績に依れば聯合各縣出品中病毒を含有すること最も多しとす

蠶種製造のことは地勢廣濶にして蛆害少なく土壤の構成密に過ぎざる地方に於ては有利の業務なるを以て聯合各縣の狀況に照らし品質改良上重要なる事項を列擧し以て出品者の品意を促さんとす

一、桑葉は天然野生の桑樹に依ては其地方に適當なる種類を撰み一定の品種を用ふへし

- 二、桑葉の肥料は効力稍々久しきに渉るものを選択し成る可く初夏の季節に多く施し春季發芽期に迫りて液肥を過用するを避くへし
- 三、原種は原種検査を受けたる後尙ほ色澤形狀の常規に外れたるもの又は産附の状態不良なるを除去し其齋一を圖るへし
- 四、繭具は養蠶後或は掃立前に完全なる消毒法を協同施行すへし
- 五、火力を以て繭兒を飼育するも成る可く華氏七十度以上の高温に昇らしむへからず
- 六、原紙は甚しき粗製品を用ゆへからず且框製にありては成る可く圓框を用ひ其直徑は一吋四分内外を適當とす

○繭

秋田縣 蠶繭に侵され固有の品質を損傷し否らざるも形狀の大小宜しきを得ず或は不同にして又繭層薄弱なるものあり器械取検査の成績に據れば類節切斷少からず  
 去歲聯合各縣は一般春繭期の末に到り氣候冷温にして繭兒は充分なる發育を遂げざりしもの多く従て今回の出品は繭層薄すく且解舒困難なりしを以て絲量少なく形狀著しく大なるもの、外繭一箱の絲長は四百數十回に止り平均五百回を超過し、は極めて僅少なり又其繭度も平均三

「デニール」以上に及ものは數點に止まり「デニール」五分内外にして細太の中庸を得たる者多し而して出品者往々殺蛹乾燥に熟練せざるか爲め固有の繭質を毀損し或は黴菌の寄生を受けたるものあり將來博覽會共進會或は品評會等に出品せんとするときは收購後直に概畧の撰繭法を行ひ出品數量の三四倍を殺蛹し引續き之を乾燥して一升の重量三十四五匁に減却するを待ち繭に容れ厚紙を以て嚴封し出陣時期に到り之れを開封して精撰すへし若し附近に完全なる殺蛹乾燥室の設置あらは須らく此れに依託すへく其便宜なきときは自ら小乾燥器を作り前述の手續に依るへく其輕便なるものは幅長各々二尺七八寸高二尺二三寸の底なき厚紙張りの箱を造り之れを爐上に置き上部の外面には三四個の排氣窓を備へ内部の上方には淺き抽出し二三段を設け其周圍と箱の内面とは三四分の間隙を殊し此底は竹簀にて張り各段に繭を並へ且最下段には寒暖計を挿入れ生繭を容れてより凡そ一時間華氏二百度に熱するときは殺蛹し得るを以て爾後百八九十度に保ち前記の程度に達する直乾燥せしむへし

尙ほ繭質改良上注意すべき要件を示さば本邦在來種にありては一升到二百五十粒乃至三百粒を容るべきものを選びへく或ひは大に過き或は小に失するものは共に繰絲に便ならざるなり其長と幅との割合及び繭れの淺深は各種固有の性質に従ふへしと雖も何れも齊一にして又縮皺は

甚しく密に過きんよりは寧ろ稍々粗なるを可とす野生桑樹の繁茂せる地方に於ては之れを利用すること不可なしと雖も其採集に困難なる場合にありては地方の風土に鑑み適當の種類を栽植すへし此れに依りて桑葉採集運搬の勞を減少し葉質の損傷を免れ成繭の品位に優良ならしむるの利益は栽培の費用を償ふて餘りあるへし

○ 生 糸

秋田縣 色澤暗鈍捻造拙劣なるのみならず一二の出品を除くの外は絡交粗にして錢肉の固着甚しく力絲及緒留不完全なりとす且織度細太差大にして觀節甚多し

製絲經濟に關し當業者中或は生絲の品位を優等ならしめんよりは寧ろ製造費の多額に上るを避くるを以て主眼となす者あれども機業者は工賃の低廉ならんことを欲し機械上の困難を避けんか爲め一般に優等なる生絲を需要せんとする傾向あるを以て品質を改良するは製絲業者の當に務むべき所にして加之製造上諸般の事項を改良せば生絲の價值を上進せしむるのみならず其生産費を軽減し得へきは實際に徴して明かなりとす故に今回の出品審査の成績によりて改良すべき要點を掲げ當業者の参照に供せん

一、色澤 色澤の純清なるを否とは必ずしも其品質の良否を表はすものにあらざれども殺

蛹乾燥の法を過ら解舒を困難ならしめ或は黴菌の寄生を招き煮湯繰湯を汚濁し以て全体の色澤を害し殊に繰湯の新陳代謝を怠り各認表裏兩面の光澤に雲泥の差を生じたるもの各縣共に座繰製に多かりき殺蛹乾燥の法は東京蠶業講習所の裝置若くは其他に於て考案したる法方の中適當なるものを選び品質の損傷を避け併せて時間と費用の減少を圖るへし

二、束裝 束裝宜しきを得ざるものは取扱上不便にして絲質を損傷すること少からず束裝を粗畧にするも生産費の省減は僅々たる額に止まれり然れども賣價に著しき影響を及ぼすものにして今同出品中鐵砲造り或は拙劣なる折返りの如きは茲に評論するの必要なしと雖も捻造りにして束裝の粗畧なるもの多し二繩を併せて一捻となす場合には其重量二十匁を超へざらしめ力絲は總の双方に相對して白色若くは淡藍色の木綿絲を以て五つ編みとなし其太さは中位のものを選び緒留は明確に設け總は充分乾燥を待つて取外し之れを捻造りとなす際には總幅を揃へ過じ或は絲縷を斷ち或は總の一端を折返し頭部を纏繞する部分を甚しく廣くし或は頭部の締め充分ならざる等の弊なきを期せざるべからず

一、絡交 絡交粗にして亂れ易きもの或は認め雨耳厚く或は中央嵩まるものあり須らく完全なる絡交器を備へ大箴は六角のものを用ゆ箴角には相當の圓味を附け且毎に清潔に拭ひ又總幅二寸五分其長は四尺九寸五分を適當とす

一、織度 織度に細太の差を生ずるは品質不同なる原料を用ゆるに因ると雖とも監督不行届にして絲縫接緒の時期を過つか爲めなること多しとす

一、節節 輪節は繭の本質に基つくの外殺蛹貯藏及煎繭法の適否に因ること大なり又大糲は主として器具機械の不完全なると繰絲法の粗忽なるに外ならず

從來慣用の器具機械を變更するには新調費用の外に其使用法に熟達するまで多少の日數を要し之れを實行すると難しと雖とも生産力に富み且繰絲上便利なる機械を利用するの得策なること既に明かなれば當業者は各自の資力に應じて新式機械に改め止むを得ずして座繰器を用ゆるも其要所を適當に改作するに非らざれば假令殺蛹乾燥を過たさる良繭を用ゆるも生絲の價格を上進せしむること能はざるべし

◎畜産

○秋田縣の牛馬

左の一籍は客年開設せられたる第三回奥羽六縣聯合物産共進會出品の審査報告中本縣に係るものを抜萃したるものなり

馬匹の一般を観察するに前回出陳のものに比し多く進歩の見るべきものなく時に或は劣等の感あるものなきにあらざるは蓋し前回を距る僅に二星霜の短日月間に於て撰擇の區域擴まらざると物價騰貴の後を襲て各農飼養管理の周到ならざりしもの明かに之か原因たるを疑はず然れども四區十九種物品中之か撰擇より出陳に至る迄幾多の勞費と準備に歳月を費し而して會期中出陳關係者の苦心慘憺時時管理を忽にすへからざる牛馬の如きは他に其比類なく今や冀北駿良馮するの秋に際し幾多優物を遠く青森灣頭の一場に蒐集せし當業者の熱心と管理法の漸く其度を高めつゝあるは確に斯業進歩の証たるを失はず當業者たるもの須らく孜々怠らず次回を待て更らに優勝目を驚かすの所期あるべく當業者も亦各地産馬の優劣に考ひ誘導其宜きを得て時弊に的中するに非れば百般の施設悉く徒爲に屬するの結果なきを期せず依て縣別短評を擧て參考に供するも敢て無用にあらざるべし

秋田縣 輓用として重大有力の馬格たるは普く世人に知られたるも今回出陳したるは輕非の雜種若くは農用系統の退却種にして貴相に乏しく體格の均衡を失するもの往々之あり寧ろ固有

重大の鞍馬を出陳すること恐らく觀者の興望なりしならん要するに該縣の如きは細輕乗用種を用ゆるの極端なると共に重大冷血種に頼るの不利を知らば中間適宜の良種馬を以て固有欠處の臂格を改良し多く實用的産馬を得るに銳意せんことを望む

牛は前回に比し稍進歩したるの狀あるも聯合縣内僅々拾余頭の出陳に過すして加も大に賞すべきの優物なきは東北の爲め頗る寒心すへきどころたり惟ふに前回其要を復命したる如く種牛供給の途なきは當業者の最も苦慮するところにして改良の利を知るも之を施すの方法なく徒に難駁蕃殖を是事とし經濟上幾多の損失を蒙り爲に進路を遮斷するの傾あるは事業の爲め最も遺憾とするところなり苟も畜牛の農業經濟に至大の關係を有し特に未墾地居多肥料欠乏の東北地方に必要なるを知らば如何なる方法に依るも可なり積々良種牛を輸入して大に前途に期する策なるべからず

### ●山林

#### ◎森林殖樹法

森林の國家經濟に關するや今更贅言を要せざる處にして世界各國其の東西を問はず苟も一國を建つるものは唯一の基本として森林造營に努むる所なるが就中獨逸佛蘭西の如きは最も之に重

を置き良制を布きて保護増殖を計りつゝある事なるが吾が邦の如きは地味豐饒鬱蒼たる森林自然に繁茂し薪炭建築敢て不自由を感せざるの結果一の弊習を醸して亂伐をなし營林の事に至ては措て顧みざるの狀なるを以て萬山秃に及ぶも憂を爲さざるの感あるは歎すべきの次第なるに本縣の如きは殊に營林の業に適するの地たるにも關らず之が計畫の方法を講せざるは一大欠點なり

今奈良に於て實行せる其の計畫なりと云ふを聞くに二百七十萬本の杉檜を植付けたる者にして百年の間之に培へ以て六百貳拾五萬五千三百八拾七圓四拾壹錢壹厘を得るに在り而して其の方法は十年目より遂次幾年を経て之の間伐を爲し一方に於ては其の利を擧げ一方に於ては其成長を計るの法にして先づ十年目には杉二十八萬三千五百本を間伐し十五年目には杉二十四萬九千七百七十五本十八年目には杉二十萬四千八百二十八本二十一年杉二十三萬二千三百三十九本檜十二萬千五百二十五年目には杉二十三萬二千三百三十九本檜十七萬二千二百二十五本三十年目には杉十三萬九千二百八十三本檜十一萬三千二百七十五本三十五年目には杉十一萬四千四百二十七本十檜一萬三千二百七十五本四十年目には杉八萬九千四百四十一本檜六萬九千九百六十五本四十五年目には五萬四千四百八十四本檜三萬七千七百七十九本五十年目には杉四萬五千三百三十二本檜三萬

一千六百二本五十五年目には杉二萬五千六百七十七本檜一萬七千九百七十七本十年目には杉二萬三千百九本檜一萬六千七百七十八十年目には檜一萬五千五百三十五本八十五年目には檜一萬二千九百五十二本百年目には杉二十萬七千九百八十六本檜十一萬六千五百十六本を伐り得るの方法なりと云ふ是ど實に百年の大計ならずや

◎商 業

◎商品集散及商況 (明治三十三年一月)

○株式會社土崎米穀鹽油漁取引所理事長の報告

一月中の商況は前月に均しく相場に差したる變動なく當期九圓九拾錢中期拾圓貳拾錢新甫三期拾圓四拾錢に寄附き四五錢の高下ありて散會せり再來手合ありしも何分雄物川筋水結の爲め三郡の積下げ米の途切となり故に現米日々に昇騰し殊に産地に買入入込み意外に地元高となり京坂地及北海道筋とも安からざる來報旁々人氣鋭く折柄先見越し賣糶米とも更に無之けれども解水舟楫の便に差開なき場合には如何成行へきか其當時は唯買の一點に均しく商勢爲めに出來高至りて僅少にして納會を告げたり本月中の受渡米は百五十石にして建直段拾圓四拾五錢なり鹽石油は天張前月同様の姿にして發會相場鹽一等品當期壹圓五拾錢中期壹圓八錢新甫三月期壹

圓拾貳錢石油は當中期出來なく三月期松函三圓九拾錢に出來ありしのみ要するに兩品とも舊冬中の仕込の爲め現物とも些々たる取引にして定期取引は皆無にして納會となしり

米鹽油集散の概畧米穀前月より繰越高壹萬五千五十石之れに積下げ米千五百石を加へ合計壹萬貳千五百五十石内八千五百石は東京及北海道に向け輸出并地元需用に散し差引現在米四千五十石なり

鹽は前月より繰越高三萬五百俵輸入なし内三百五十俵は河邊南秋田の二郡に散し差引現在高三萬五十俵なり

石油は前月より繰越高五千五百箱輸入なし九百箱河邊南秋田山本の三郡に散し差引現在高四千六百井なり

○株式會社本莊米穀取引所理事長の報告

米穀集散の概況

一米一萬三千七百六十石

越 有 高

但内國米

一米四千九百石

輸 入 高

但し明治三十二年産米にして由利郡内より

一米千六百石餘

消費高

但し本莊に於て一ヶ月消費概算

一月三十一日正米在現高概數一萬七千六十石

商況

當取引所一月中の商況は正米に於て漸次雄積を爲すと共に舊糧以來不振の商熊も落に一變して市場活況を呈し新甫三月期落會は拾圓五拾錢に寄付き示來東京酒田地方下落の報を傳へたるより四拾錢臺に降落し賣買双方氣勢活氣を加へ目覺しき商戰なりしか月末に至り買屋は陰歷年末に際するを以て金融の逼迫を氣構ひしものによ抄々しき取組なく七拾錢臺の高直に小堅く本月の納會なれり

本月受渡米の石數は三百七十石にして受渡直段九拾八拾七錢なり金融は不相變引締り利子日歩三錢五厘より四錢迄

工業

◎秋田縣の織物漆器及清酒

左の一篇は客年開催せられたる第三回奥羽六縣聯合物産共進會出品の審査報告中本縣に係るものを抜萃したるものなり

○織物

羽二重 輸出羽二重は青森縣を除くの外各縣之を出品せしも豫想外に少なかりき今其種類を擧ぐれば片羽二重本羽二重の二種にして前者は福嶋、宮城、山形の三縣之れを出品し後者は岩手、山形、秋田の三縣之を出陳せり其外福嶋縣より縞綾羽二重の出品あり片羽二重の特點は其重量の輕きにあり今回福嶋縣の出品を通觀するに其出品の少數なるにも係はらず其目付種々にして重きは六匁、輕きは三匁五分に至るものあり而して六匁乃至五匁付のものは本羽二重にても既に福井富山等の機業地に於て盛に製造せらるゝ以上は片羽二重は其特色とする所を以て競争する外あるへからず要は可成箴目を増し経緯の平均を保ち組織の整一ならんとを力むるにあり更に望む所は生販賣を練販賣に改むるの一事とす例へ川俣に一ヶ所の練場はあるにもせよ其多數は自己製品の精練後如何なる觀を呈するやを知らず從て種々の點に改善すべきものあるを覺らざるか如し又聞く所に依れば片羽二重の最優等品は本羽二重の上等品と伍するを得るも之より下れる品に在りては本羽二重の四等品以上に肩を並ぶること難しと云へり是を以て或者は説

を爲して曰く川俣現今の景況より推せば古來の製糸法を改良するにあらずれば到底最優等品を製する能はず此慣習は一朝にして打破すべきにあらずは常に其製品は劣等の位置に甘せざるべからずと夫れ或は然らん然れども今日の状態を以てすれば遽に各自の製糸法を改め又は原料として他より機械製糸を需用せんは到底川俣機業の組織を一新するにあらずれば能はざるを以て先練販賣を實行し依て以て自己製品の欠點を知らしめ漸を以て改良するの外策なきを信するなり以上の注意は宮城山形兩縣の出品にも之を適用すべし本羽二重を出品したるは岩手、山形、秋田の諸縣にして其産地を擧ぐれば岩手縣の盛岡市、西磐井郡一の關町、平泉村、山形縣の鶴岡町、秋田縣の横手町等とす是等は産地に練場を有するものあり或は遠く福井に輸して精練するものあり岩手縣の如き熱心羽二重事業を奨励し盛岡市に機業傳習所を設け生徒を養成し以て斯業の發達を圖らんことに盡瘁するや年あり然れども斯業の發達遲々たるもの其所以なくんばあらず獨り岩手にのみ限らざれども奥羽に羽二重事業の勃興せざるは要するに販賣の機關の完備せざるに外ならざるべし既に事業の發達せる福井、富山、石川の如きは賣買并に金融の機關具備せるを以て一朝斯業に指を染むるに當り製品にして劣等ならざる以上は容易に販賣して資本を運轉するを得れども奥羽の如き未だ其域に達せざるの地に在りては多少の製産を爲すも地元に於て

之を販賣するに由なく又遠く之を福井等の仲買又は横濱の賣込商に托せんか仲買者に於ても頗る迷惑の次第にて少數の品にては是のみにて取引する能はざれば他地方産の羽二重の品質稍等しきもの、中に挿込みて一荷とせざるべからず故に其品物が直に金に成ると云ふ譯に行かす或は直引を請求せらるゝことなしとせず從て資本の運轉を欠くか故に其業を起すに躊躇するの傾あらん故に先第一に販賣の機關を設くるを急とすへきなり其法種々あるべしと雖ども一縣下の製品を可成一定ならしめ之を一所に集合し此集合すべき所(會又は一個人)は横濱商人と交渉して荷爲替等の便法を以て品物を送り製造者には製品に對して内金を渡す等の計畫を爲さば斯業の發達上少なからぬ効能あるべきなり

本會出品の本羽二重は前回に比し著しき進歩を見る能はざりしは頗る遺憾にして其欠點とする處は畧前回の審査官の注意せられたる所と相同しく片羽二重に向つても等しく注意を望む所なり事は前回の報告に詳なるを以て贅を避け其要領のみを擧げん

一 緊條の多き事

一 織班并緯糸の拘れ

一 織耳の不整



一 精練の不完全

又絹織審査員岩手縣杉村孝治の出したる羽二重概評は参考の爲め左に掲ぐ

秋 田 縣

羽二重 新産地としては大に進歩の状況を呈しま、製織の見るべきものあり爲原糸又佳良然れども中には組織甚だ不完にして往々經糸に釣り縮みを生ずるものあり注意を要す加練は福井にして仕上るらうらうらうを使用したるを以て異様の光を發し自然の色澤を失したるは惜むべし  
白着尺類 此種類の織物は其數多からず其重なるものを擧ぐれば宮城縣の着尺羽二重、斜子、八橋織、福嶋縣の生絹、絹、岩手縣の斜子、縮緬、秋田縣の祇織、山形縣の白絞絹等とす秋田の白祇織は古來物産の名あるにも係はらず精練の巧ならざる爲め趣味に欠くる所あり且つ光澤充分ならず殊に織耳に赤糸を引込みたるもの、如きは批難すべきものとす何者是等は多く染色して使用するものなるに其赤糸は堅牢なる染料を用ひたるものにあらずれば滲出するの恐なしとせす又染業者の云ふ所に由れば祇織は使用する糊料の爲めか充分美麗なる色を得難しと云へり果して然るや否やを知らずと雖も當業者宜しく此邊にも注意するを要す前回の報告に指摘せられたる欠點は本會の出品にも之れを認めたり事に當るもの宜しく三省して可なり

縞八丈縞祇織

縞八丈縞祇織は秋田縣の出品にして縞八丈は青森、岩手、宮城に些少の出品あり

秋田縣の縞八丈は古來の特産なりと雖も發達を見ず近來替八丈と稱へ種々の縞柄を製出し八丈縞たるを示すか爲め幾分か玫瑰染の糸を引き込みあれども其組織と云ひ縞組と云ひ始んと糸織に似て非なるものあり其縞柄は専ら糸織に模倣し其要系箴目等は在來の八丈に異ならされは其趣味品位に於て欠くる所ありて所謂途中半派の製品となり而も其價格は糸織を去ること違からず斯る織物の將來聲價を保つや否やは疑問なり縞祇も亦近來の趣向と見へ前回の報告を見るも其出品ありしことを認めず現來祇織物なれば之に縞を織り出すも凸凹の部分ありて縞の明瞭ならざる傾あり殊に縞と祇と重なりては何となくシッコク見ヘスツキリせざるの傾あり此邊又一考を煩すべきなり

要するに八丈と云ひ祇織と云ひ前の議論は又手措き精練の惡しき爲めか又は染色の工程に依るか手サワリ何となく面白からず飽も乏しき様に見受けられ宜しく研究を要する事共ならん他縣の縞八丈は舊來の縞柄にして左せる批難はなきも價格の點に方て秋田に勝を譲らざるを得ず左に絹織物審査員小松林兵衛及田中久吉より提出したる概評を掲げて絹織物の部を終るべし

秋 田 縣

小 松 林 兵 衛

八丈織は東北の産として見るべきものにして一二の改良品無きに非ざれども右風を脱せず之れに増量を加ふるが爲め濱根染料多量に附着し絹糸の本分たる性質を失ひ光澤に乏しきの觀あり之が改良を計り需用に後れざらんことを注意せしめて可ならんや

麻織は組織上別に欠點なしと雖も經の割合に薄きに過くるあり練方は舊習を守りて純白ならず且つ手サレリの悪きあり能く下拵に注意せずんばあるべからず

綿織は意匠配色共に巧ならず染方も又然り是等欠點の改良を計るべし

輸出羽二重は未だ幼稚なるが故に目付多量に過き見るべきもの少なし

田 中 久 吉

一 秋田特産たる八丈は近來大に改良を加へ染色等に注意す今や殆んど彼の八王子産と競争するに至れり隨て販路も亦三都及名古屋廣嶋其他各縣の希望年々増加し其實績の如きは喋々せずと雖も知るべきのみ且價格の點に至ても他縣の出品と對照せば尤も廉なり若手一の關八丈の如き掛目七十匁にして代六圓四拾錢のものあり實に驚くべき高價ならずや尙且我縣八丈産額増進を確實に証するは一昨年岩手共進會出品に比すれば這回の出品は染色意匠及多數の出品にて瞭然たる事疑なし

一 白麻の如き三都に輸出し素質純長にして美備はり衆人の信する處八丈に等し價格の如きも廉は論を俟たず

一 綿織は染方正紺にして毫も疑ふ處なく純全たる良品たるは誘言するに憚ることなかるべし是等の三品は秋田特産として他の模造製出し能ふ所にあらず

一 近來發明の新玉織并に袴地の如き染色組織適當にして價格廉なり

一 六縣聯合共進會出品絹織物中輸出に關する羽二重の如き將來有望の織物たるは勿論内國需要者と雖も時勢の進むと共に隨伴せざるべからず這回五縣出品を縱覽するに各特産あり山形風通の如き著き成績を呈せり又系織の如き一に組織の改良せるものありと雖も二等三等の如きに至りては一定せざるものなきにあらず價格の高低に依り不所得所なるか

○ 漆 器

本縣は秋田市及雄勝、北秋田、山本、仙北、平鹿の五郡より三十一名の出品者あり其出品數數百七十二點に達し膳、椀、箱、重箱、菓子器の類多しと雖も優品は稀なり殊に能代塗は能代港町の名産たるにも抱らす第一流の出品なかりしは遺憾なり

出品中椀類は價額低廉にして實用に適するものなきに非ざれども製作は概して不良なり又菓子

器の類に於て塗方良好なるものありしか意匠及模様拙劣なり一例を挙げんに雪月花の模様に於て櫻花の内に軍帽を畫きたるか如きは是れなり

要するに本縣の漆器業は甚だ幼稚なるを以て之か發達の爲め大に當業者の盡力を要す

○ 清 酒

今回清酒の出品人は四十一名其點數五十二にして秋田市及南秋田、北秋田、鹿角、由利、河邊、雄勝の六郡の出陳に係れり

審査の結果によれば香味色澤佳なるもの稀にして僅に由利郡某の出品に於て稍宜きを見るのみなり又「さるちる」酸を加へたるもの多く其數二十品に達せり審査員の言に依れば元來本縣は奥羽に於ける屈指の米産地にして雄勝、由利、河邊、仙北の諸郡至る所清淨の泉水又は井水湧出し能く酒類の醸造に適すと云ふ然るに今回出品の不良なるは何ぞや蓋し技術の幼稚なるに由らざる可らず若し學理を應用し技術上に改良を加ふるに於ては需用も増加し奥羽鉄道貫通の曉には追々販路も擴張せらるゝに至らんか

● 氣 象

◎明治三十三年寒入氣象及積雪量

一月六日の寒入より本月三日節分迄に於ける氣候の概畧を記さんに始め六日の寒入數日以前より高壓部朝鮮地方に擴張し低壓部は北海道の東部に滞留せる等冬季殊特の常態を呈せるより日本海に面する當地附近は西方の大陸風卓越して著しく温度を下降せしめ寒氣厳しく降雪間斷なかりしか其後高低氣壓の變動より十日夜來日本海面を經過せる南東の氣流は頗る暖濕を帯ひ來り遂に翌十一日早晩より午後互りて降雨せり爾來兩三日間は稍々暖氣を感せしか十四日朝來馬低氣壓の位置以前に復し且つ低壓部は一層濃厚となりしを以て北西方の暴風連日に互り降雪絶間なく越へて二十一日に至り高壓部著しく擴張し來り北海道の西部地方より當地附近を掩ふに至りしを以て風力頗る減殺し密雲漸次消散しつゝ同夜間全く快晴となりしより地熱の放散頗る激しく頻りに温度を下降せしめて翌二十二日早晩に至り最低度氷點下十七度一(華氏一度二)に達し本年以來の極度を呈せり爾來天氣は急に變化し來り翌二十三日より再び降雪を始め北西風烈しく連日寒氣凜烈を極めたり其後本月一日に至り北海道東部地方に於ける低壓部は漸次消失して新に琉球南部に現出し急に發達漸進の模様を呈すると共に風位南東に遷轉して頻りに暖濕の空氣を吹送せるより温度急に昇騰して二日午後より三日夜に互り間斷なく降雪せる等殆んど入寒以來の暖氣を呈して寒明に至る而して此期中尤も寒氣凜烈を極めしは二十一日より二十

六日に至る六日間にして此間の平均最低温度氷點十一度二(華氏十一度八)又降雪量の多かりしは十一、十二、十五及び二十六、二十九日の五日間なりとす即ち此期中に於ける重要現象を平年と對照すれば左の如し(平年とは明治十九年以降三十二年に至る十四ヶ年の平均なり)

平均温度氷點下二度八(華氏二十七度)にしてこれを平年に比すれば一度昨年より二度低し  
平均最低温度氷點下六度二(華氏二十度八)にして平年に比すれば零度六昨年より二度四低し  
絶對最低温度氷點下十七度一(華氏一度二)これを最近十四ヶ年間の極度に比するに最低は二十一年に於ける氷點下二十四度六にして二十四年の氷點下十九度二これに次ぎ本年は第三位の低度なり

平均温度の氷點下に降りし日數二十五日にして即ち平年より三日昨年より七日多し  
最低温度の氷點下十度(華氏十四度)以下に降りし日數六日にして即ち平年より三日昨年より四日多し

降雪日數二十六日にして平年に比するに二日多く昨年より一日少し  
降雨日數三日即ち二十年及び昨年より二日少し

雨雪總量此期中の雨雪水量の總計は百三十七ミリメートル二にして昨年とは大差なくも平年に比するに三十三ミリメートル六多し  
最多積雪の深さ一尺八寸(曲尺)にして則ち最近十四ヶ年間の絶對最多なり  
即ち本年の寒中は平年及び昨年比し寒氣激しく降雪頗る多量なりしが如し左に管内に於ける去る三十一日現在の雪積量を調査し最近十ヶ年間で對照せんとす

一月三十一日現在の積雪(曲尺)

所名	尺	深さ
由利郡本莊	八〇	二十六年以降の多雪
同 象瀧	五八	二十八年以降の多雪
同 矢嶋	三、三〇	同斷
雄勝郡湯澤	四、八五	最近十ヶ年間の多雪
同 皆瀬	五、二〇	二十六年以降の多雪
平鹿郡沼館	三、六〇	二十九年以降の多雪
同 横手	二、九〇	同斷
仙北郡大曲	三、五〇	二十七年以降の多雪
同 角館	三、二五	二十六年以降の多雪
秋 田 市	一、八〇	最近十ヶ年間の多雪
南秋田郡土崎	一、六三	同斷

同	船川	一、三〇	同斷
同	五城目	二、二〇	同斷
山本郡	能代	二、六〇	同斷
同	八森	二、四五	同斷
北秋田郡	阿仁	五、七〇	同斷
同	鷹巣	二、八〇	二十六年以降の多雪
同	大館	二、一〇	
鹿角郡	花輪	三、一〇	最低十ヶ年間の多雪

● 雑 事

◎ 第二回各府縣實業會大會開催に付て

左の一篇は中央實業會監督前田正名氏より各府縣實業會員に配布したる書面を騰寫したるものなり

國運の進捗は國費の膨脹を伴ふ、是れ夙に國民の心に期せざる可らざる所、民度亦漸く進み生活隨て困難を覺ゆるは、社會の大勢に於て理の常に然るべき所たり、單純より復雜に入る、此際に處する國民の覺悟果して如何、  
資産ある者は年を遂ふて其負擔愈々益々遞増すべく、中流以下の輩は日に月に其生業の困難と

利益の減少を感ずるに至らん、現在已に此の如し、將來の國狀想像するに難からず、  
今や我國の經濟界は世界的共通にして歐州に於ける金利の高低は忽ち我金融界に影響を及ぼし米國の動靜は直に我生產業に至大の反映を與ふ生存競争の眞理は明に此間を支配して貧富強弱其國民の擇ぶ所に任せんとす、  
苟も資力徳望を以て一地方の上流を占め、他の模範たり標格たる者、無意にして此時代を經過せんか當に國家に對して其本分を空ふするのみならず、祖先の資産を維持し門流を存續するの責任を全ふする能はざらん、  
然らば則今日の要之を如何せば可ならん、他なし一地方の利益を計圖し、其府縣若くは郡町村各自の富力を増進するを以て上流者の責務とし、郷黨の爲めに力を盡すの外、一意他を顧みざるの決意を爲すに在り、  
各府縣に實業會を組織せるもの眞意實に此に存す余は先づ其組織の精神よりして之を説かざる可らず、

第一 各府縣實業會組織の精神

各府縣に於ける資力徳望他に超絶せるもの二三十名を限りて、其府縣の實業會を組織せるもの

大に故あり、抑々我國の産業を振興せんと欲せば、先づ其組織と機關とを完備せざる可らず、身合の兵を以て正々堂々の戦闘を爲す能はざるの理に由ればなり、於是乎我國重要の各産業に團體の組織を勸誘し終に十二團體を組織せり、而かも是れ全國を通じての組織のみ、各地方の結合に至ては其基礎未だ甚だ鞏固ならず、其力亦極めて微弱なり、砂上大厦を建つるも何ぞ其堅牢を望むへけんや、要は其柱礎をして牢乎抜く可らざるものたらしめざる可らず、然れども地異なり風同しからされは一率を以て之を推す可らず、宜しく資力徳望其地方に卓絶せるの人をして之か幹旋の任に當らしめざるへからず、是れ各府縣實業會の組織を必要とし、力を其構成に致したる所以なりとす、而して各會は他府縣の状況と對照比較して其足らざるを補ひ其及はざるを追ひ相競ふて其地方の根脚を固定し以て既成の十二團體と照應し相弁んで其用を爲すに至らしめざる可らず、組織の要茲に至て初て完きを得たりと云ふへし、

既成の各團體は其成立以來日向淺きに拘らず、其成功を算すれば十指猶ほ足らず、而かも其大會の決定を以て之を政府に建議すれば何れの内閣を問はず之を峻拒したるの例あることなく、又之を議會に提案すれば甲黨乙派の別なく、欣て其成功を贊助するに至れり、是れ固より實業問題本來の性質として當然のことたるや論を待たずと雖ども、組織の力當業者の輿論を大成す

るにあらすんは、焉そ此の如くなるを得んや、若し夫れ全國を通したる各業者の大團體と各地方内の各業團體と駢立として、鞏固なる方針の下に行動するに至らんか、其効果豈に唯今日を以て率すへけんや、實業會の用亦多辭を須ゆるを要せざるなり、

各府縣實業會員の撰拔は前に實業會中央本部之を特薦し、諸氏の承諾を得たるものなりと雖も、而かも此間多少の遺憾なきにあらず、何となれば各地往々一業に練熟し其熱心眞に他の編鑑たるの人なきにあらず、其業の爲めには最も厚く尊重せざる可らざるの人なるも、此種の人を實業會員に加盟せしむるは、其用の上に於て將た其組織の精神に於て宜を欠けるものたり、各業に練熟と熱心とを有する人は、須らく其業の團體に入りて其組織の完成に力を盡すべく、實業會は全く此種の人を助けて其手腕と熱心とを圓滿に遂行せしむへき機關たらしめざるべからざるなり、故に實業會員は全く資力徳望他業を推服せしむへき門地あるの人に止め、各業の有力者は去て其業の組織に盡瘁せられんことを切望す、今や各府縣實業會員中往々此兩種の人を混同し、双ながら其美を成す能はざるの憾みあり、漸を逐ふて其區別を正し本來の精神を全ふせざるべからず、

## 第二 實業會の目的及事業

各府縣實業會は其組織の精神に伴ふべき目的及事業なかる可らず、抑々一國には其體面上確乎たる國是方針を立定するの要あり、之れなくんば昨是今非浮萍の如く、又羅針盤を備へずして舟を行るに似たり、然らば則國是の立定は之を何れに求むべきか、先づ町村郡是を定め、而して府縣是に及び、而して後國是自から定まる、今日の要は一事一業の振興發達を企圖するの外、別に此國是立定の急あるを忘るべからず、乃ち各府縣實業會は主たる其事業として其府縣郡町村是を定むるを以て第一の急務と爲さるべからず、而かも之を會員各自の意見に徴せず宜しく調査の結果に依り、事物其物の示す所を以て其府縣郡町村の方針とし、十年二十年乃至五十年百年の大計を定め、着々歩を邁ふて一地方の福利を増進し、國運の進歩に隨伴して列國環視の間に優然卓立するの地を爲さんことを要す、故に曰ふ各府縣實業會第一の要務は府縣町村の立定に在りと、

正名の之を説く十年猶一日の如し、而して世人顧みず、近年偶々秋田縣農會長石川埋記之介福圓縣八女部長田中慶介の二人進で其調査に従ひ、事物の示す所に依て郡町村是を確立し、之を實地に施設するや、忽ちにして巨額の實利を増進し、初めて其必要を世人に悟らしむるに至れり、其功勞實に没す可らず、今や正名亦全國を八區に分ち、毎區一縣を撰みて模範調査に従事

せしめ、其成るを得て之を全國に擴め、速に國是確立の基礎を爲さんことを期せり、各府縣實業會、則之に取らば蓋し容易に其功を成すを得べきを信ず、且や又各府縣實業會員は他府縣の實業會員と力を協せて、國家經濟上に關し平素幾多の講究を爲すの要あり、何となれば其地方の福利を増進せんが爲めには自から一國經濟上に關聯すべき問題少なからざるを以てなり、講究の結果其目的を遂行せんが爲めには各府縣實業會力を協せて爲すべきの事業取るべきの手段必ず之れあらん、毎年一回其大會を開催するの要實に之れがためなり、

### 第三 基本金の募集

基本金は其目的の事業を遂行するが爲めに必要欠く可らざるものたり、今其常務として費用を要するものを擧れば

- 一、内外各地に視察員を派遣すること
- 二、府縣郡町村是を立定すべき爲め必要の調査を爲すこと
- 三、機關雜誌を發刊して通信を頻繁ならしむること
- 四、基本金募集高の十分一を削て其府縣實業會の基本金と爲すこと

以上は中央實業會の常務を掲げたのみ、其調査講究の結果により、或は政府に或は議會に大々的運行を爲すに當り、之が勢力の地を爲すへき諸機關の設備をも全からしめざるへからず、是れ一に金力に存す、基本金募集亦止むを得ざるものたり、而して其本金は

正會員 修身會費金壹圓

贊助會員 直接農工商業に關係なきものにして金壹圓以上の出金を爲せるもの

寄附金

の各種に區別し、之を今額金百萬圓に満たしめんことを期せり、若し夫れ基本金支出の方法に至ては、各府縣の實業會員を議員とし、其議員の決定に由りて之が費途を定めんと欲す、

基本金募集の方法は監督たる正名自身之が幹旋の任に當り、其議員たるへき各府縣實業會員に任托して之を委員とし、其地方内の募集事務に當らしめんとす、今や正名熱心以て其本金の満額に達せんことを希望し、其募集せる金員は毫厘も之を其經費に消費せしめざらんことを欲するが爲め、中央實業會の事務費は毎月其豫算を定め、一切正名一

己の寄附支辨とし、募集金をして速に所期の全額に満たしめんことを懇祈せり、

第四 會員候補者の撰定及現在會員の名簿

第一項の末段に陳述せるが如く、現在の各府縣實業會員中一業に練熟熱心の人を混する等、多少其撰を誤れるの地方なきを保せず、故に來る四月大會開催の際、參考として各地方より候補者人名及資格等を詳記し之を監督たる正名の手に回付せられんことを切望す、而して其撰擇の精神は第一項の要旨を參酌し、實業會組織の本旨に違はざらんことを要す、而かも現在會員は甲乙相互の間に其人名を紹介せんが爲め、假に其名簿を調製し之を卷末に添付せり、

第五 第二回各府縣實業會大會の開催

附全國實業青年會大會のこと

來る四月二十日より三日間京都市に於て第二回各府縣實業會大會を開催す、大會の問題は中央實業會よりの提案あり、各地實業會よりの提案も亦必ず之れあらん、故に各府縣實業會は大會前各其總會を開て各問題を審議し、責任ある代表者之を帶ひて出席せんことを要す、

大會出席者は來る二月二十八日限り其人名又資格を詳記し、東京芝公園第十四號中央實業會へ



向け通報を爲すへし、

本大會の開催と同時に、全國實業青年會の大會を開設せんことを切望す、  
 今や各地到處に實業青年會の設けあり多夫なる望みを屬すへきもの極めて多し、將來の日本は  
 此青年の双肩に懸れり、前途の方針を立定せしむるの要實に今日に在り、之を以て各場該會の組  
 織あるものは宜しく之を勸誘して多數の出席を促し、又未だ其設けなきの地は速に之を組織せ  
 しめ、或は其期までに成立せざるものは有方なる參列者を出さしむる様、各府縣實業會十分の  
 斡旋を爲さんことを要す、是れ實に昨年四月伊勢國山田町に開ける第一回大會の決議に基ける  
 ものたり、而して青年者の爲めには特に寺院を借受け合宿を爲さしむるの計畫を爲せり其費用  
 の如き蓋し大に省畧することを得んか、  
 實業青年大會の出席者も亦來る二月二十八日を期して其人名資格等を通報せんことを要す、以  
 上大會開催の件に關しては尙各般注意すへき件甚だ多し、出席者人名の通報を待ち更に詳細の  
 報告を爲すへし各府縣實業會員諸氏請ふ之を諒せよ、

明治三十三年一月

中央實業會監督 前田正名

一各府縣實業會に於て大會前調査を爲すへき事項

一實業會に於て爲すへき事業の種類を選定し其着手の緩急を議定し置くこと  
 一天災地變に遭遇したるとき實業會又は府縣都市町村に於て之が應急の救済策を豫め議定し置  
 くこと

一全國各地に於ける重要各業の組織機關等充分完備せりや若し欠點ありとすれば何々なるや  
 一昨年伊勢國山田町に開催せる第一回相談會に於て協定せる事項中各府縣實業會に於て施行せ  
 し件々は何々なるや未だ着手せざるものは何々なるや將た實業會を法人の組織と爲したるか  
 一昨三十二年中右府縣に於ける農工商業及各事業の成績は如何

以上各項は大會前各府縣實業會に於て調査講究を遂げ大會出席者をして携帶せしむへきこと

第二回各府縣實業大會問題

一中央實業會提出案

一各府縣實業會をして相互に氣脈を貫通し簡辦に通信應答を爲さしむるには如何なる方法を用  
 ゆへきや  
 一海外の狀況を迅速に各府縣實業會員に周知せしめんとするには如何なる方法を用ゆへきや  
 一全國各地金融の便否をして可成均一ならしめんとするには如何なる方法施設を要するや

一大小官衙に對する願伺届等の手數を可成簡便ならしめんとするには如何なる方法を可とするや

明治三十三年中全國各實業區に於て開催する大會日割は左の通りなり参考として茲に掲ぐ

四月五日	中國區實業大會	廣島市
四月十日	四國區實業大會	高松市
四月十五日	京攝區實業大會	大坂市
五月一日	陸羽區實業大會	盛岡市
八月十五日	北陸區實業大會	富山市
九月九日	九州區實業大會	長崎市
九月二十日	東海區實業大會	名古屋市
九月二十五日	關東區實業大會	浦和市

(會員名簿省畧)

明治三十三年三月十九日印刷  
明治三十三年三月廿五日發行

### 秋田縣内務部第四課

印刷者

松本讓

保戸野北五番地

印刷所

秋田株式會社

秋田市茶町菊之丁十八番地

終

